

全般季節予報支援資料 1か月予報

2024年5月30日

予報期間：6月1日～6月30日

この資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する季節予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

特に注意を要する事項

西日本と沖縄・奄美では、期間のはじめは気温がかなり低くなる所があるでしょう。

出現の可能性が最も大きい天候

北日本と東日本日本海側では、期間の前半は、天気は数日の周期で変わるとでしょう。期間の後半は、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
東日本太平洋側と西日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
沖縄・奄美では、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

全般1か月予報

1か月		気温(%)	降水量(%)	日照時間(%)	降雪量(%)
		低並高	少並多	少並多	少並多
北日本	日本海側	30:30:40	40:30:30	30:30:40	
	太平洋側		40:30:30	30:30:40	
東日本	日本海側	30:40:30	40:30:30	30:30:40	
	太平洋側		30:30:40	30:30:40	
西日本	日本海側	30:40:30	30:30:40	30:30:40	
	太平洋側		20:40:40	30:30:40	
沖縄・奄美		30:40:30	20:40:40	40:40:20	

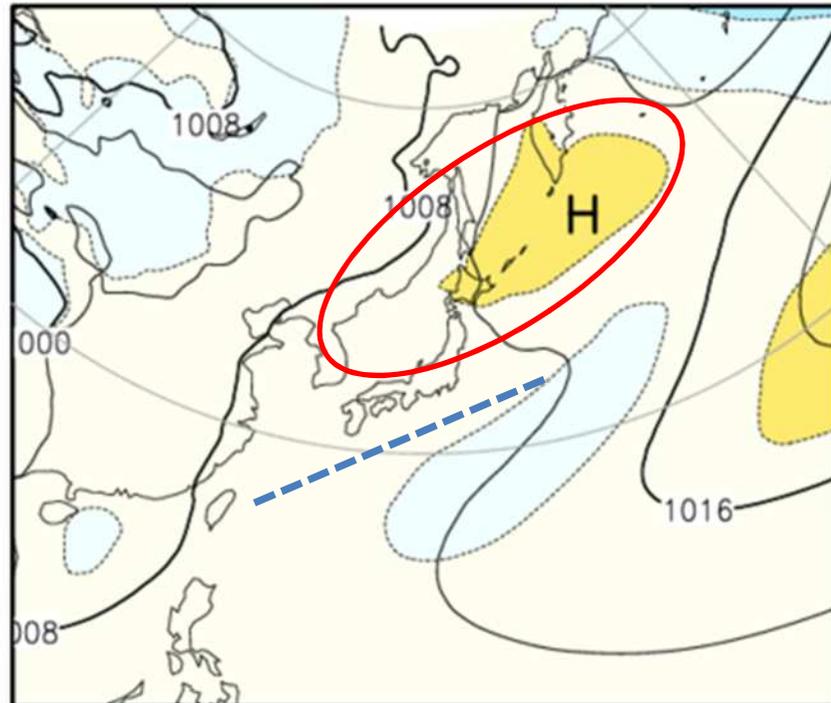
気温	1週目(%)	2週目(%)	3~4週目(%)
	低並高	低並高	低並高
北日本	40:40:20	20:40:40	20:40:40
東日本	60:30:10	20:50:30	20:30:50
西日本	70:20:10	40:40:20	20:30:50
沖縄・奄美	70:20:10	30:50:20	20:30:50

全般予報のポイント

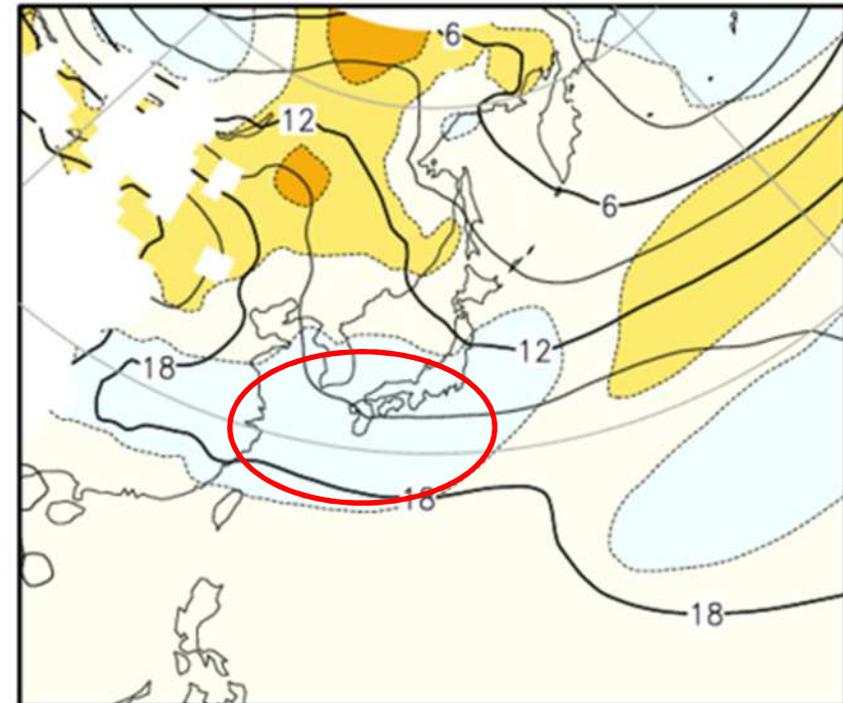
- 全国的に向こう1か月の気温はほぼ平年並の見込みですが、期間のはじめは冷涼な空気の影響を受けやすいでしょう。特に、西日本と沖縄・奄美では、期間のはじめは気温がかなり低くなる所があるでしょう。
- 前線や湿った空気の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は西日本太平洋側と沖縄・奄美で平年並か多く、日照時間は沖縄・奄美で平年並か少ないでしょう。

5月21日発表の3か月予報での6月の予報に比べ、東・西日本と沖縄・奄美では期間のはじめに冷涼な空気の影響を受けやすい見通しに変わったため、高温の確率が小さくなりました。

地上気圧(1か月)

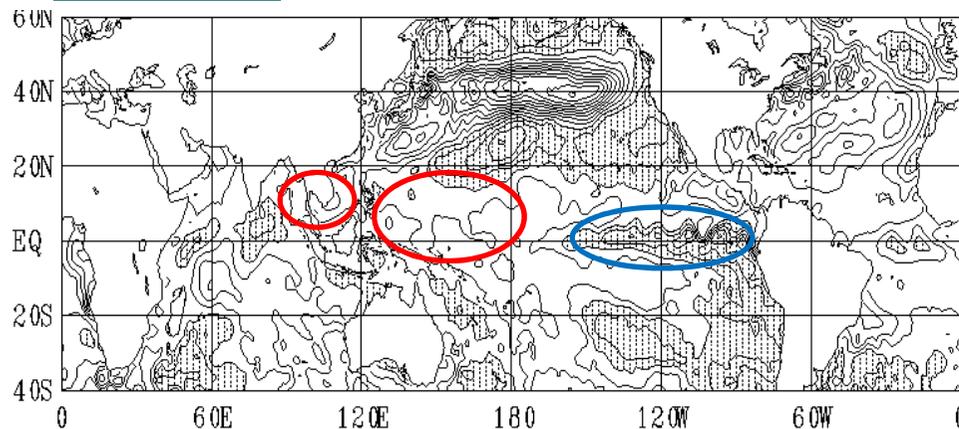


上空約1500mの気温(1か月)



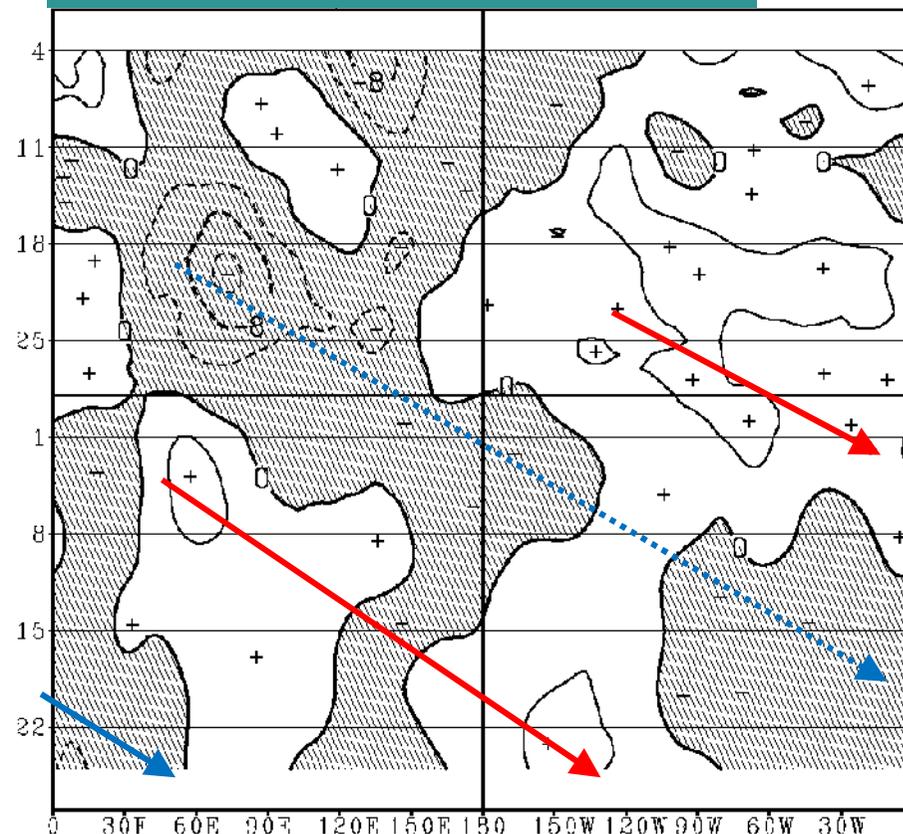
1か月平均の地上気圧(左図)は、期間の前半を中心に日本の北で平年より高く、北日本を中心に冷涼な高気圧に覆われる時期があり、前線が平年より南に位置しやすいでしょう。期間の後半には前線は平年の位置になる見込みです。上空約1500mの気温(右図)は、日本付近は平年からの隔たりは小さいですが、東日本以西では平年より低く、全国的に冷涼な空気に覆われる時期があるでしょう。

SST偏差



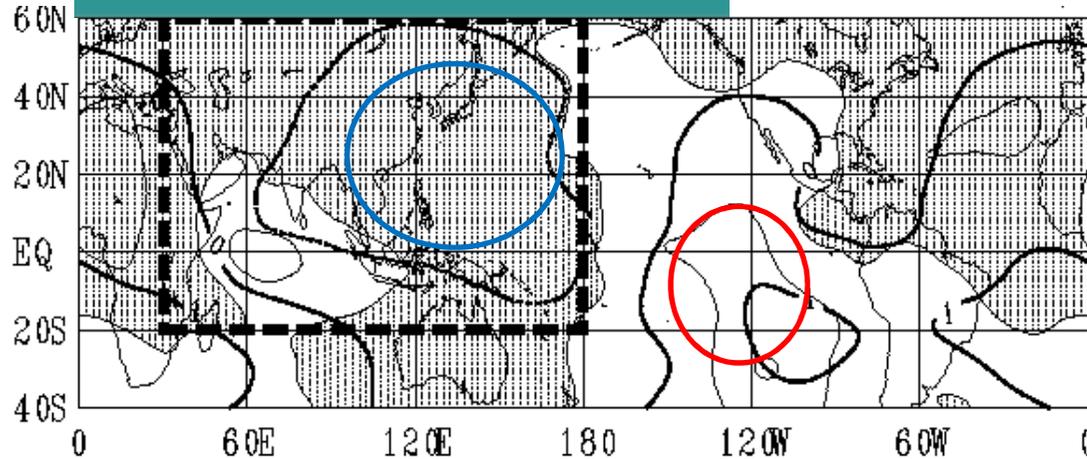
太平洋赤道域は西部で正偏差、東部には負偏差が見られる。インドシナ半島の西から南シナ海で正偏差。

200hPa速度ポテンシャル偏差



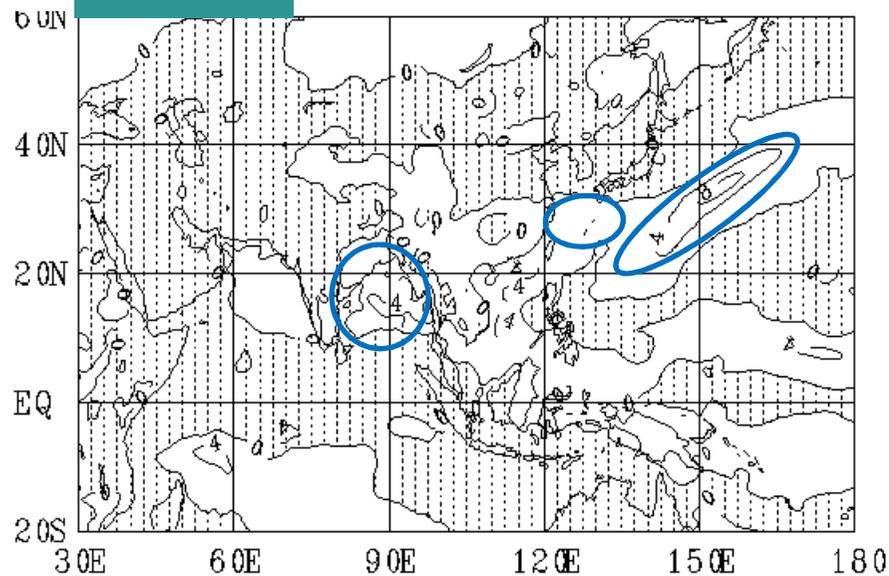
MJOの対流活発域は、1～2週目に不明瞭ながら太平洋を東進。期間終わりにはインド洋西部に達する予測。1～2週目にインド洋で対流不活発。期間後半には太平洋中部で対流不活発。

200hPa速度ポテンシャル



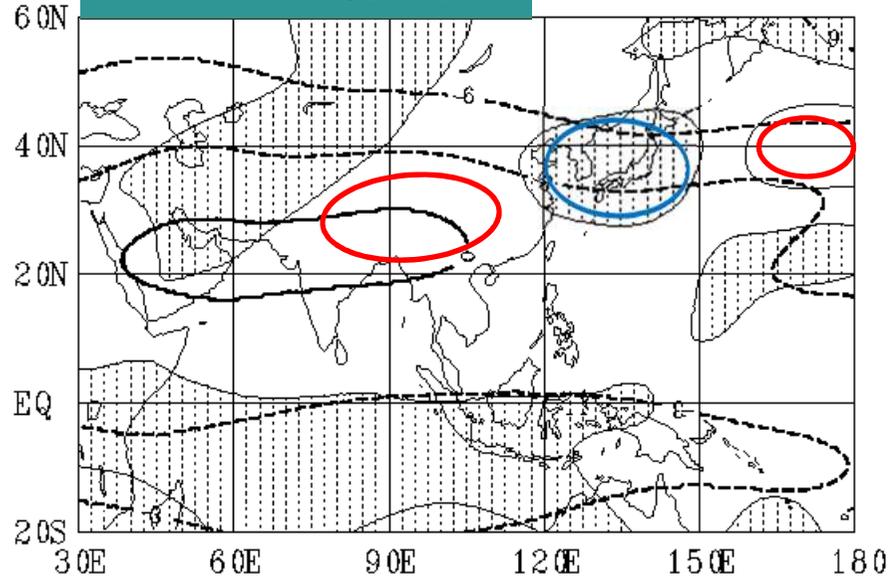
熱帯域では太平洋西部で上層発散偏差、太平洋中部～東部で上層収束偏差。

降水量



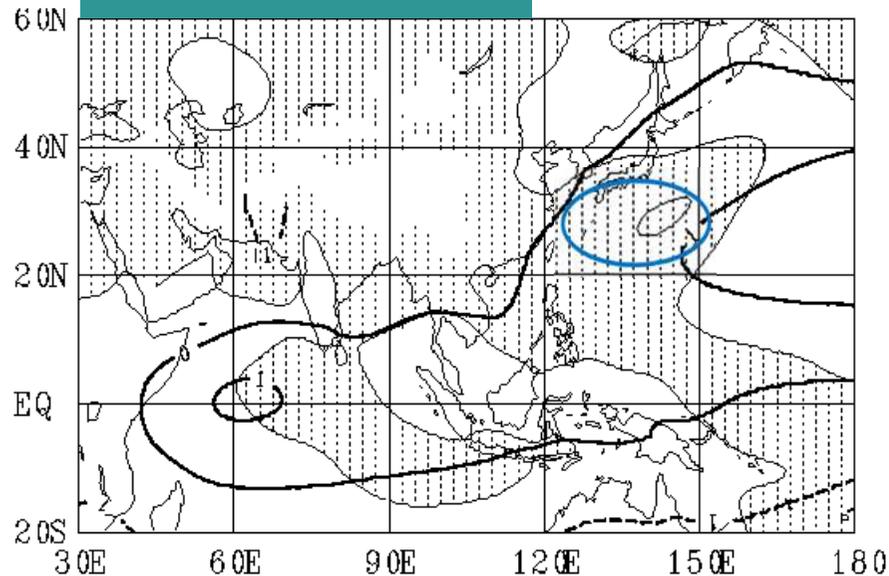
沖縄・奄美付近と日本の南で多雨偏差。ベンガル湾で多雨偏差。

200hPa流線関数



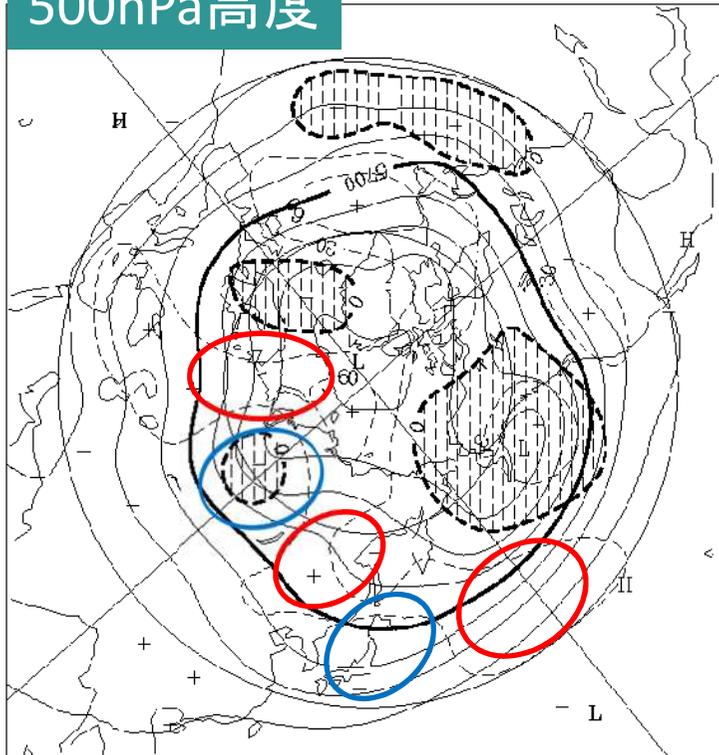
亜熱帯ジェット気流に沿った波列パターンが見られ、チベット付近は高気圧性循環偏差、日本付近は低気圧性循環偏差。日本のはるか東は高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



日本の南で低気圧性循環偏差。

500hPa高度



北半球域では波列状の偏差パターンが卓越し、東シベリア付近と日本のはるか東に正偏差の中心があり、日本付近はその間でトラフとなっている。

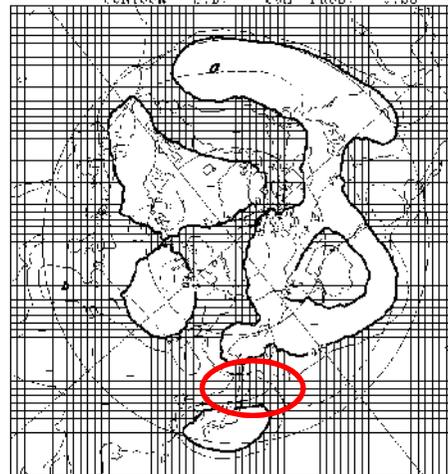
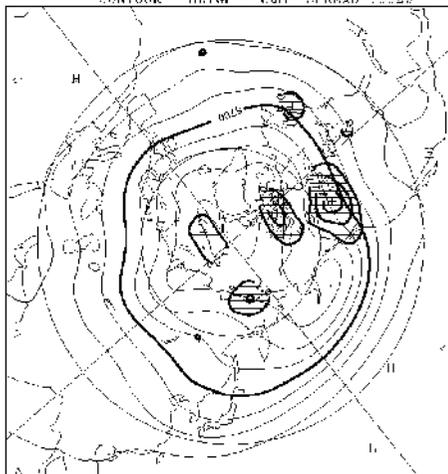
日本付近は北日本で正の高偏差確率が高い。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

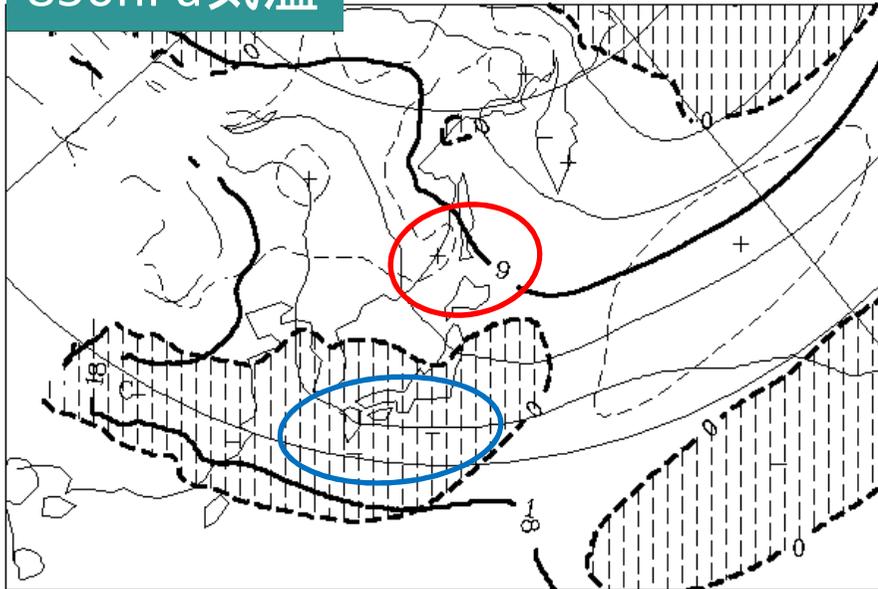
PROJ. OF H. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.25

CONTOUR S.D.: 30m PROB: 0.25

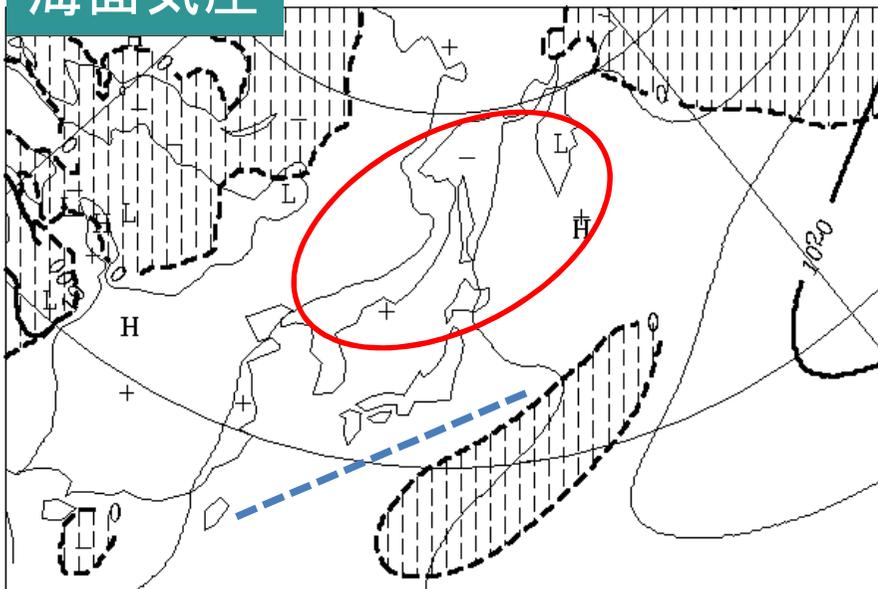


850hPa気温



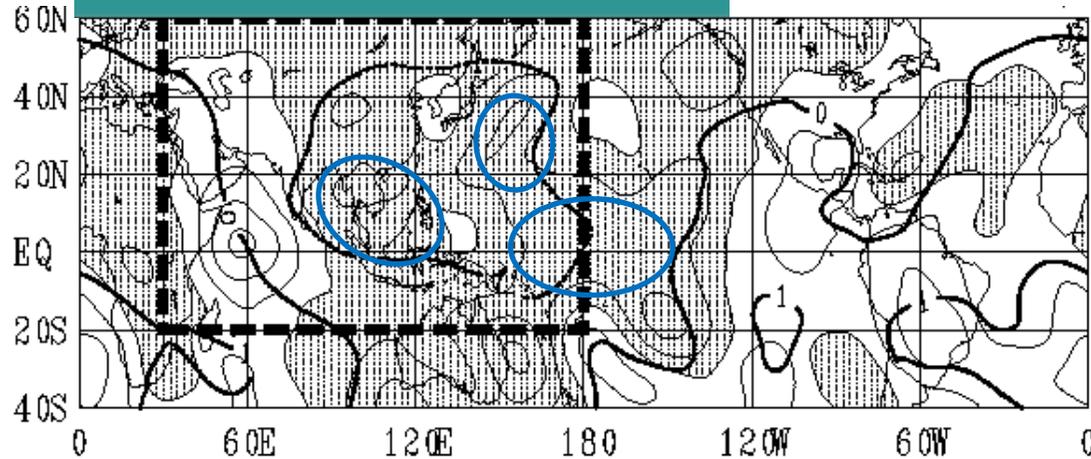
北日本では正偏差、東日本以西で負偏差だが、平年からの隔たりは小さい。

海面気圧



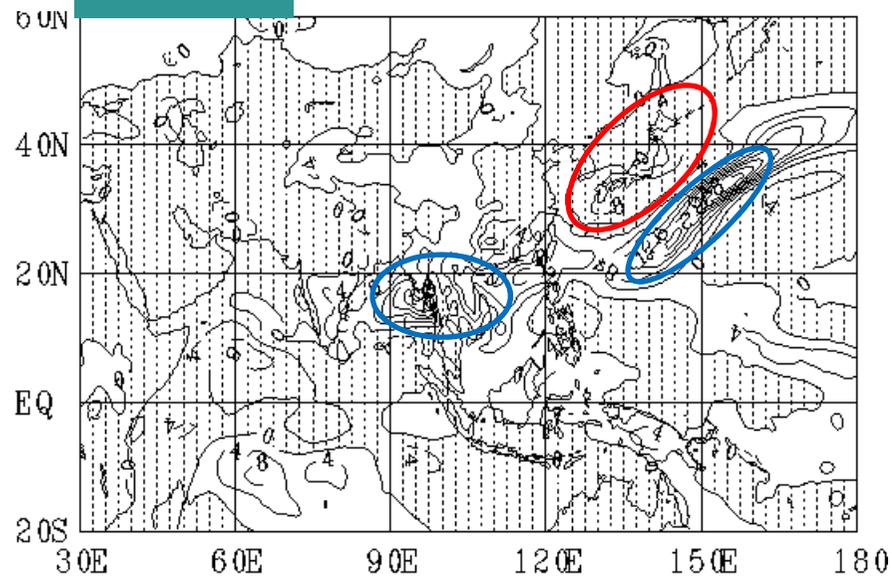
日本の北で平年より高く、期間の前半は日本の北から冷涼な高気圧に覆われ、前線が平年より南に位置しやすい。期間の後半は前線は平年の位置になる。

200hPa速度ポテンシャル



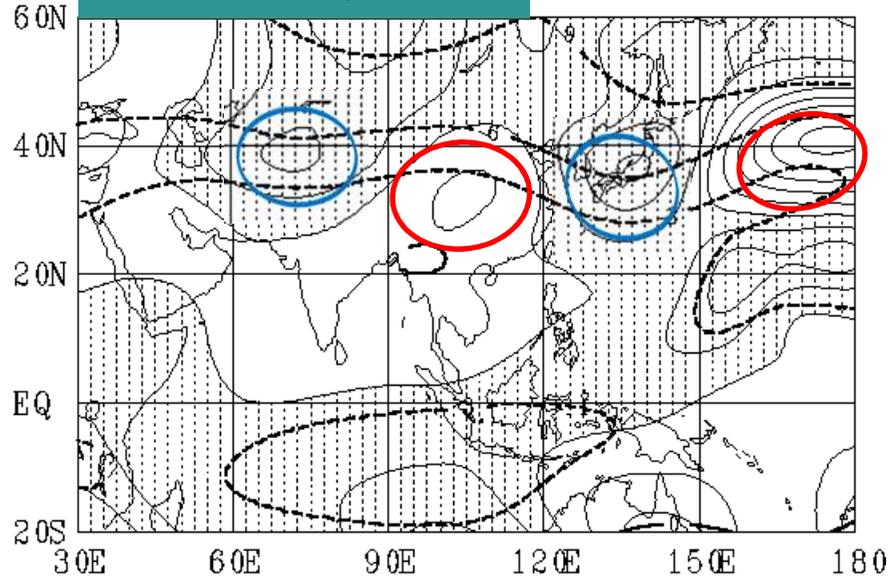
日本の南東、インドシナ半島付近、熱帯域の日付変更線付近で上層発散偏差。

降水量



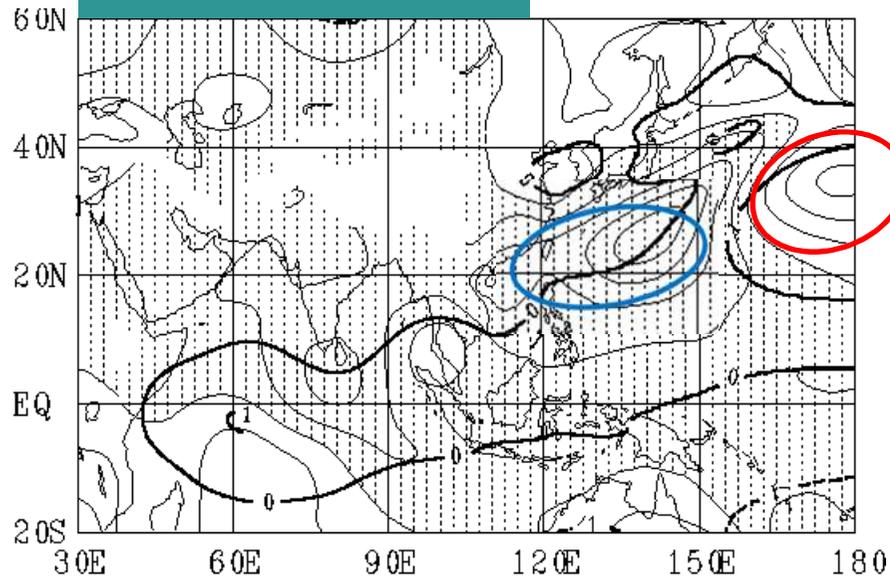
日本付近で少雨偏差。日本の南東とインドシナ半島の西から南シナ海にかけて多雨偏差。

200hPa流線関数



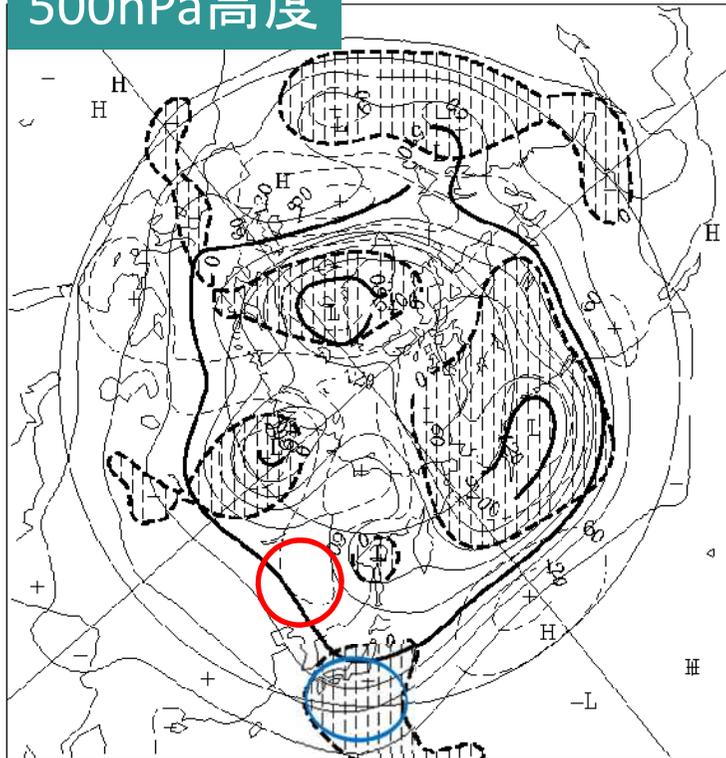
亜熱帯ジェット気流に沿った波列パターンが見られ、チベット付近は高気圧性循環偏差、日本付近は低気圧性循環偏差。日本のはるか東は高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



日本の南で低気圧性循環偏差。上層の循環偏差に対応して、日本のはるか東で高気圧性循環偏差。

500hPa高度

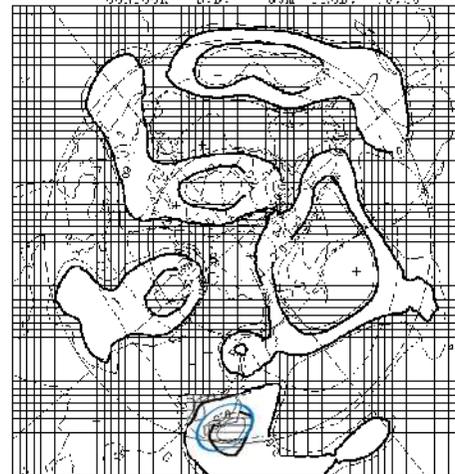
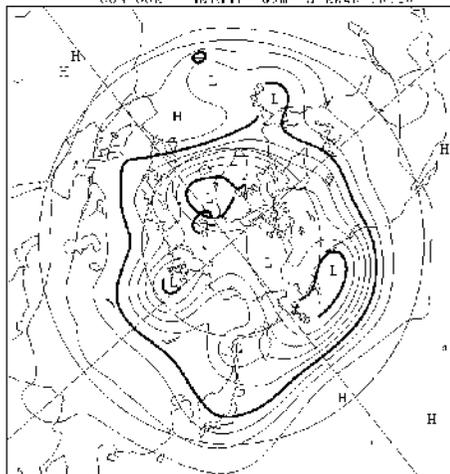


500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF H. ANOMALY AND S.D.

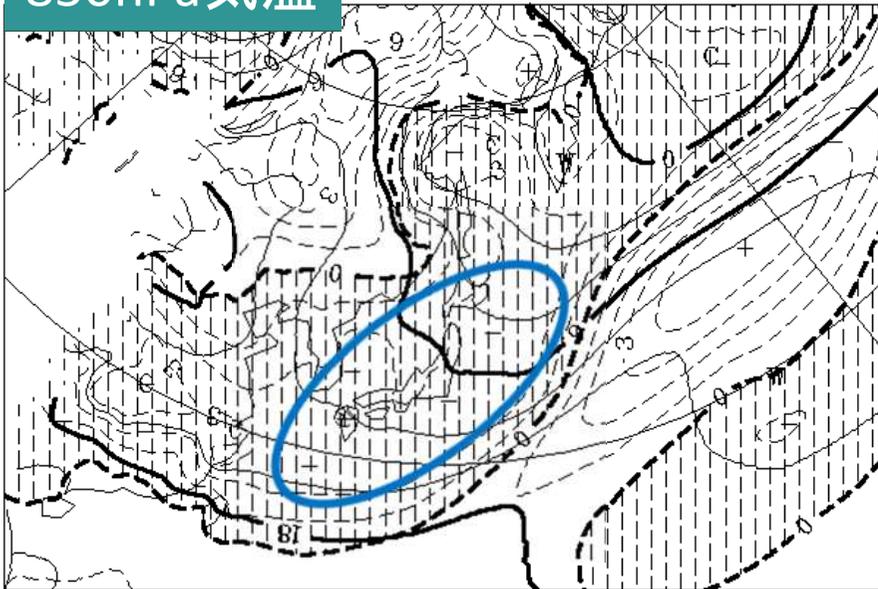
CONTOUR HEIGHT: 63m SPREAD: 0.20

CONTOUR S.D.: 33m PROB.: 0.25



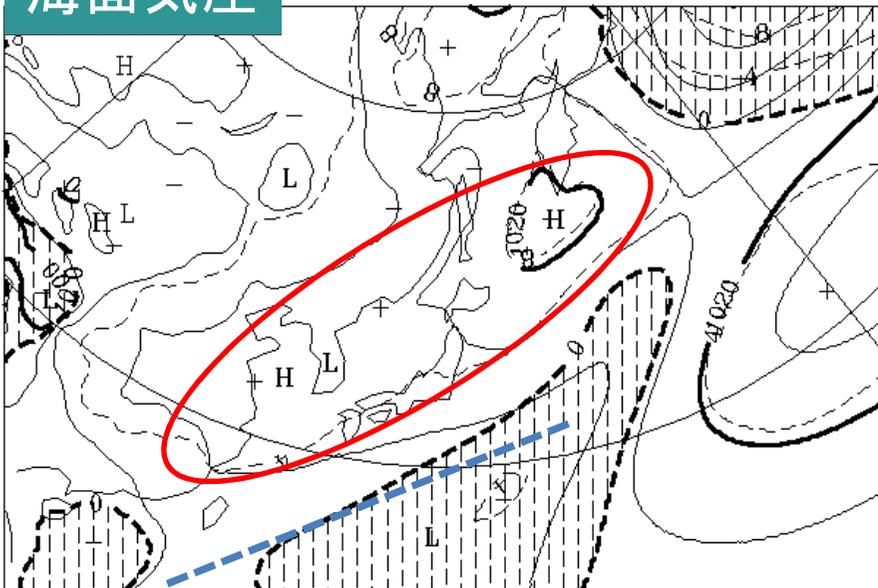
東シベリア付近にリッジ、日本付近はトラフで、東・西日本で負偏差。
日本の南で負の高偏差確率が大きい。

850hPa気温



日本付近は負偏差。

海面気圧



日本付近は冷涼な高気圧に覆われる。前線は平年より南に位置する。

想定される天候

- ・ 北日本と東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東日本太平洋側と沖縄・奄美では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 西日本では、前線や湿った空気の影響を受けにくいいため、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

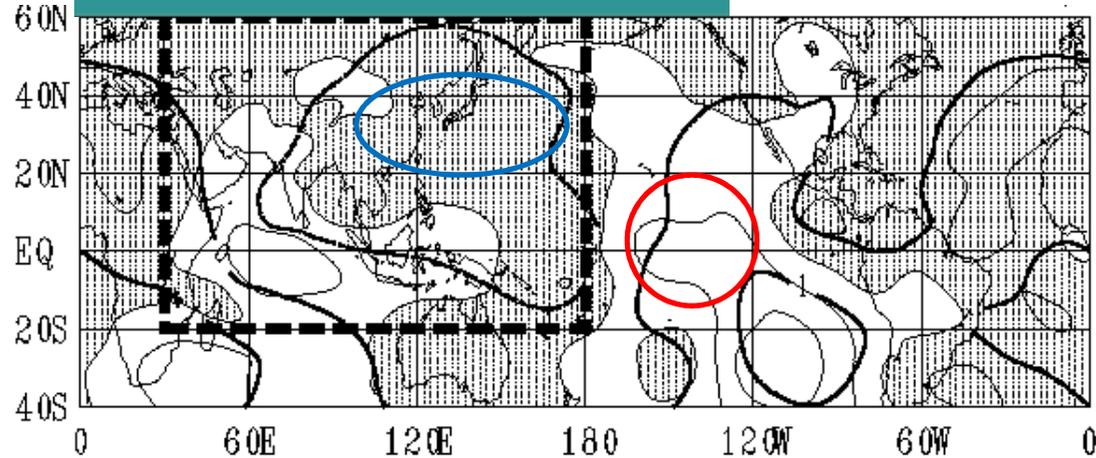
<気温>

冷涼な空気に覆われるため、北日本は低温傾向、東・西日本と沖縄・奄美は低温。

<天候>

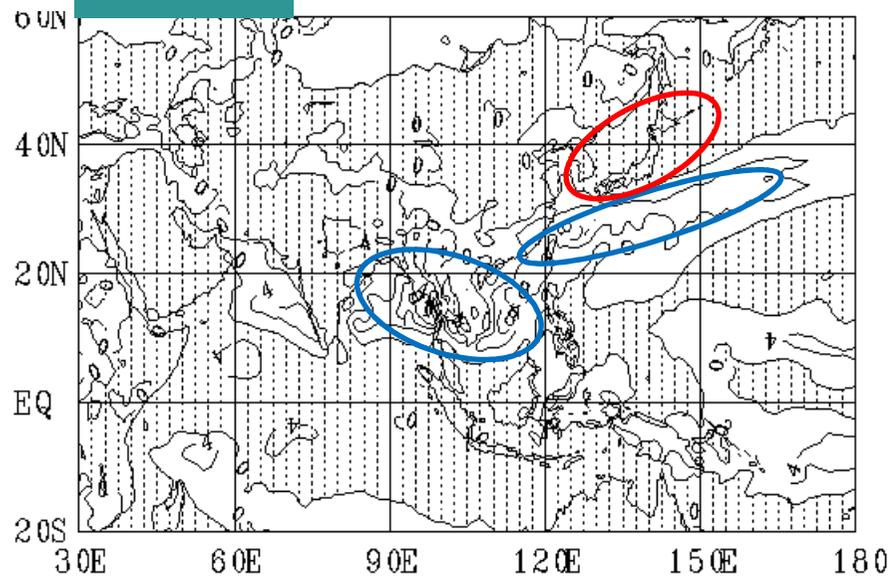
北日本と東日本日本海側では、並雨並照。東日本太平洋側では並雨やや多照傾向。西日本では前線や湿った空気の影響を受けにくいいため、少雨多照。沖縄・奄美では並雨並照。

200hPa速度ポテンシャル



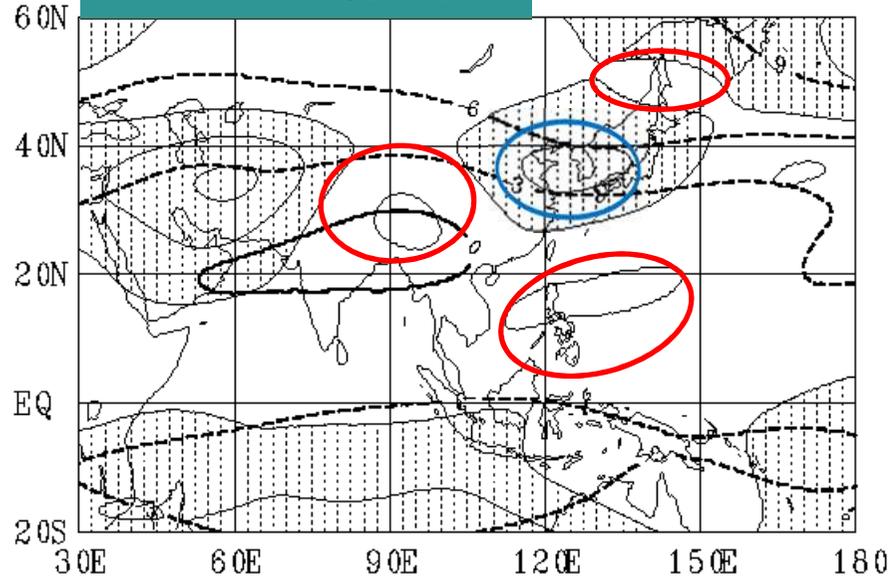
日本付近は日本の南を中心に上層発散偏差。太平洋中部で上層収束偏差。

降水量



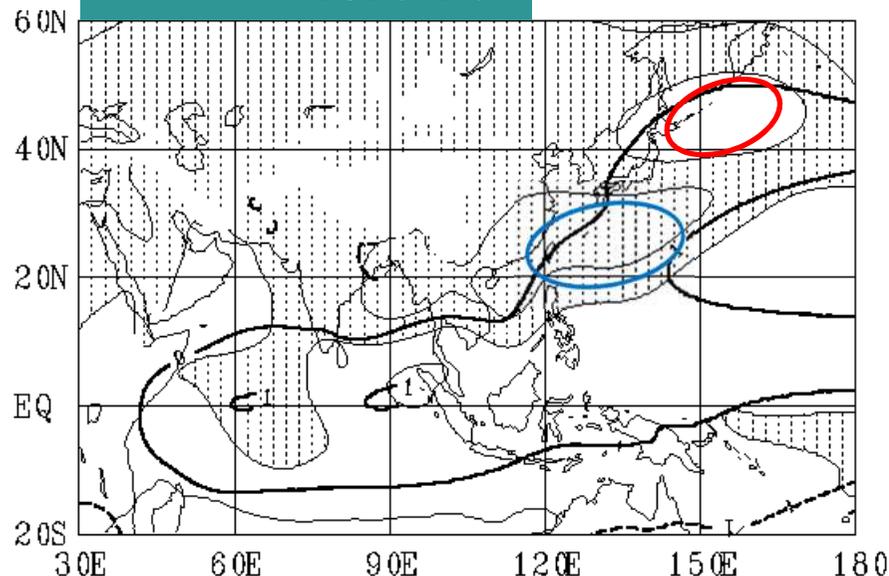
北・東・西日本は少雨偏差。日本の南とベンガル湾から南シナ海にかけて多雨偏差。

200hPa流線関数



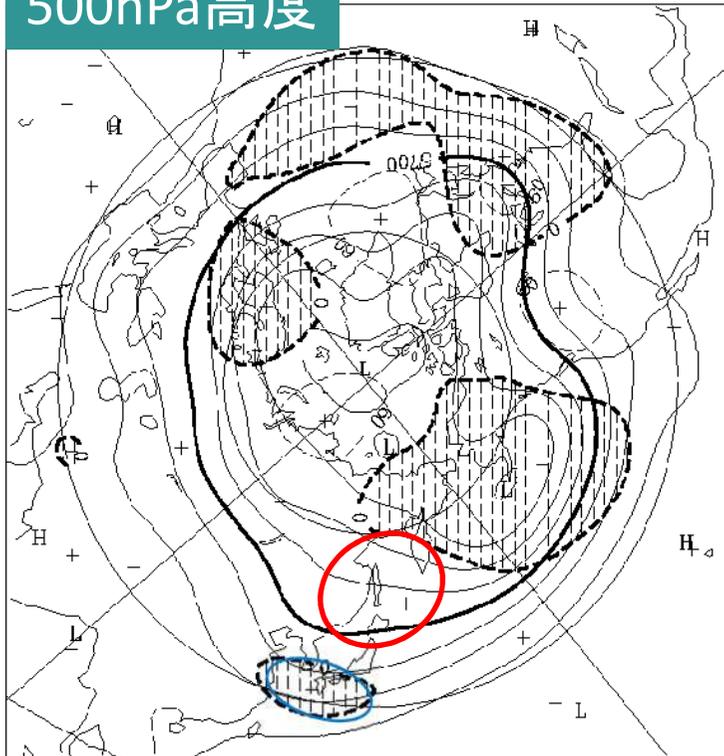
亜熱帯ジェット気流に沿った波列パターンが見られ、チベット付近で高気圧性循環偏差、朝鮮半島付近で低気圧性循環偏差。サハリン付近では高気圧性循環偏差。フィリピン付近で高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



日本の南で低気圧性循環偏差。千島近海で高気圧性循環偏差。

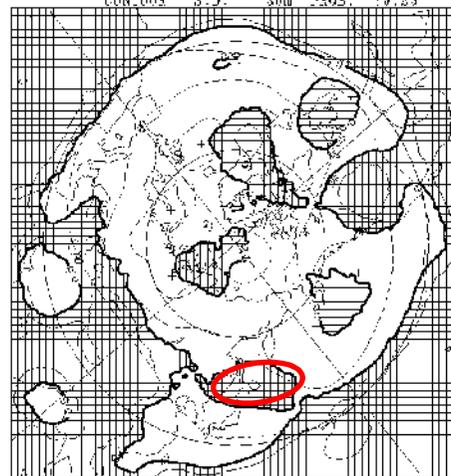
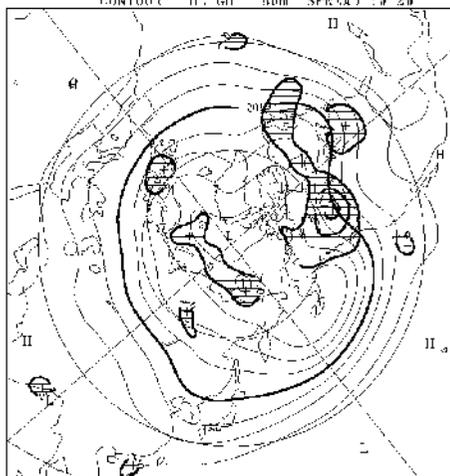
500hPa高度



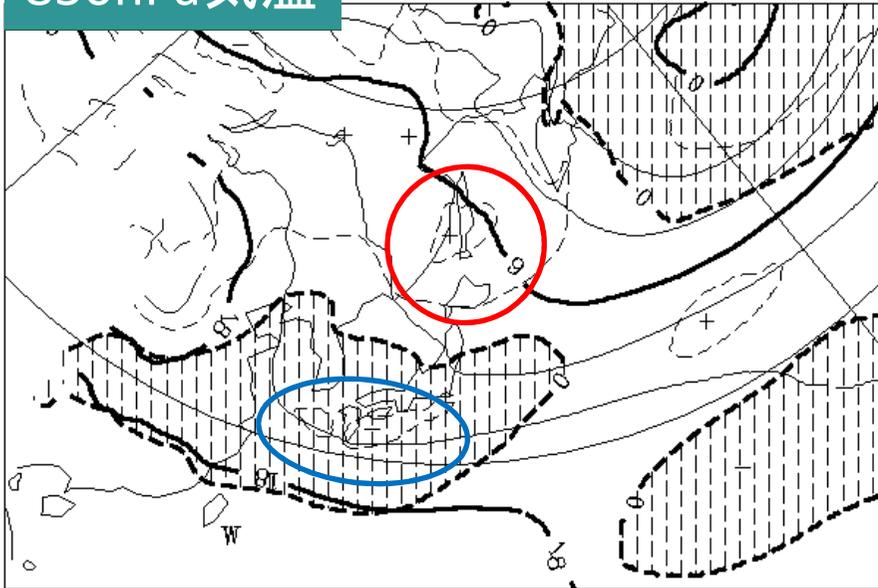
オホーツク海でリッジ、東シナ海でトラフの逆位相。
北海道付近では正の高偏差確率
が大きい。

500hPa SPREAD AND HEIGHT

PROB. OF FLAKOM.Y AND S.D.

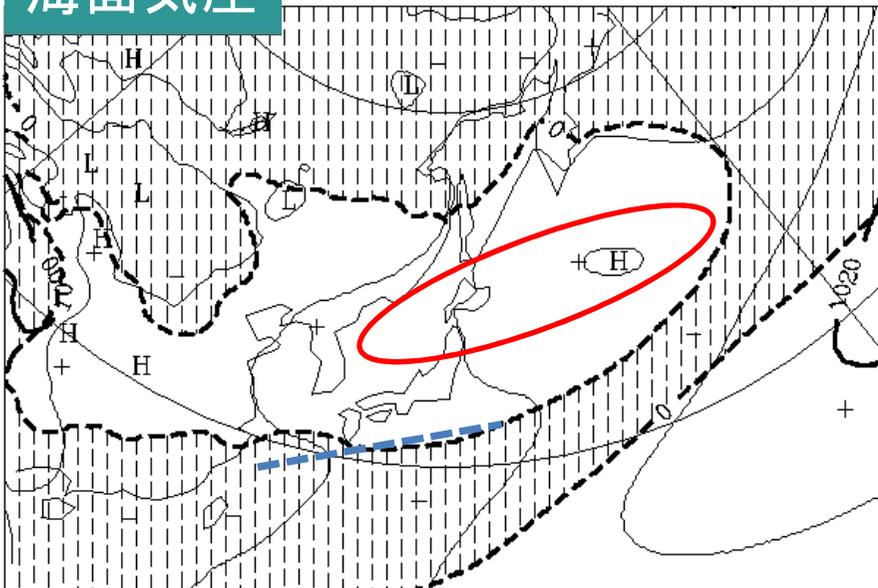


850hPa気温



東日本以西で負偏差。北日本は正偏差。

海面気圧



千島の東に高気圧の中心があり、北・東・西日本は正偏差。沖縄・奄美付近は前線の影響を受けやすい。

想定される天候

- ・ 北日本と東日本日本海側では、天気は数日の周期で変わるでしょう。
- ・ 東日本太平洋側と西日本では、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。
- ・ 沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

<気温>

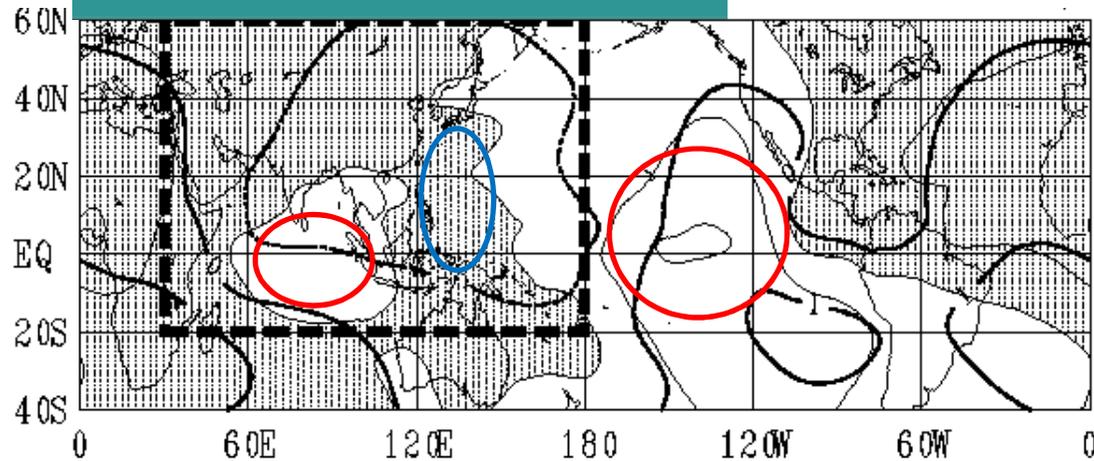
北日本では暖かい空気に覆われやすいため、高温傾向。

西日本では低温傾向。東日本と沖縄・奄美では平年並。

<天候>

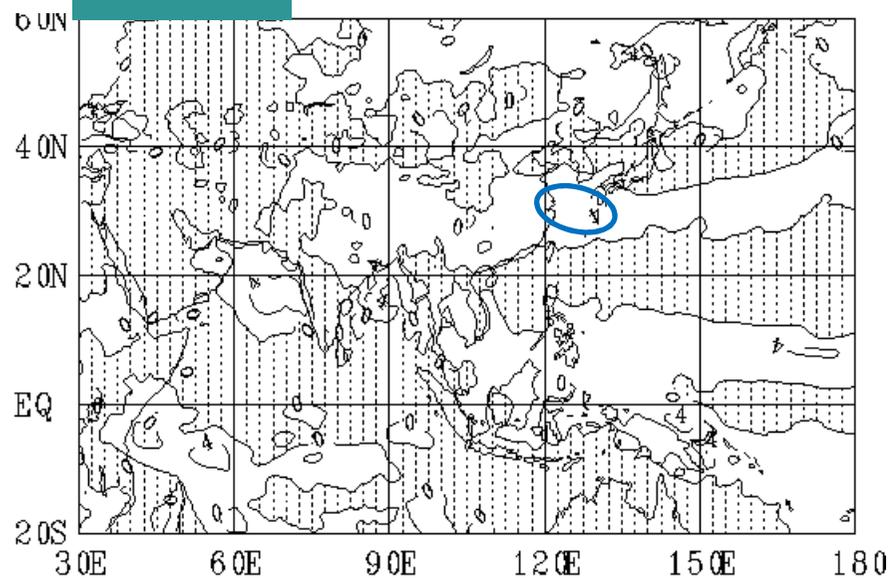
北日本と東日本日本海側では、高気圧に覆われやすいため、やや少雨傾向・やや多照傾向。東日本太平洋側では、前線や湿った空気の影響を受けにくいため、やや少雨傾向・やや多照傾向。西日本では、前線や湿った空気の影響をやや受けにくいため、やや少雨傾向並照。沖縄・奄美では前線がやや活発で多雨傾向寡照傾向。

200hPa速度ポテンシャル



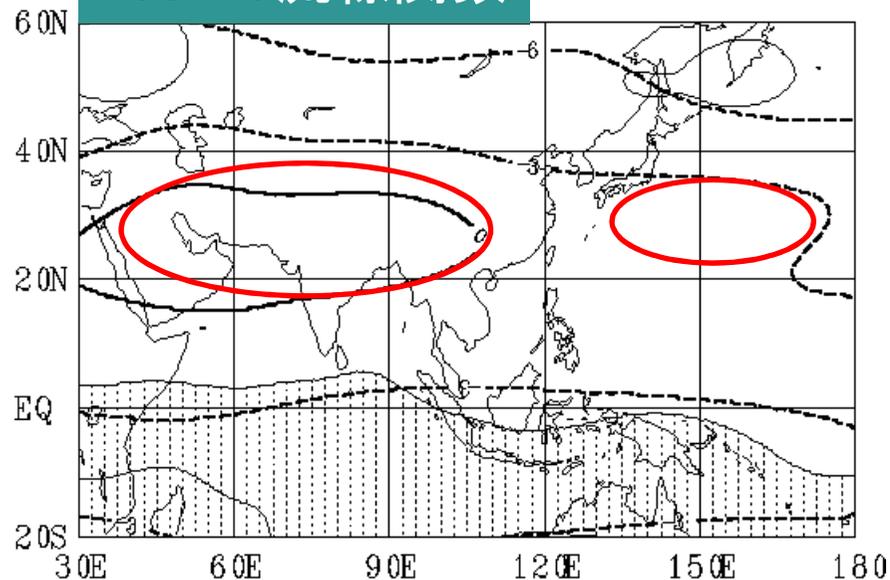
日本の南から太平洋西部で
上層発散偏差。インド洋と太
平洋中部で上層収束偏差。

降水量



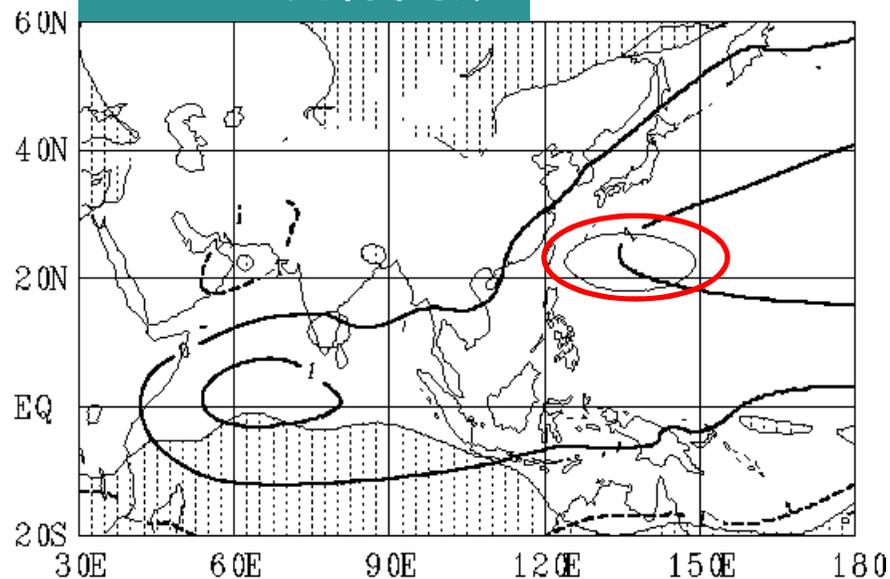
沖縄・奄美～西日本付近で多
雨偏差。

200hPa流線関数



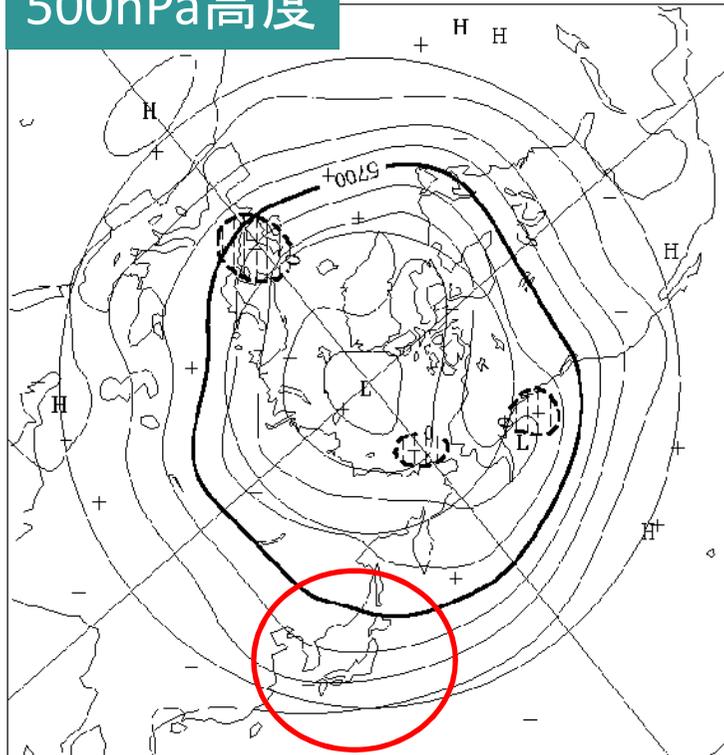
アラビア半島からインドの北にかけて広く高気圧性循環偏差。
日本の南でも高気圧性循環偏差。

850hPa流線関数



太平洋中部の対流不活発の影響で、日本の南で高気圧性循環偏差。

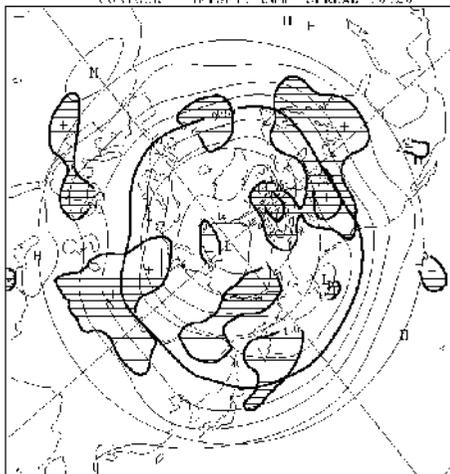
500hPa高度



日本付近は正偏差に覆われている。
北日本と沖縄・奄美を中心に
正の高偏差確率が高い。

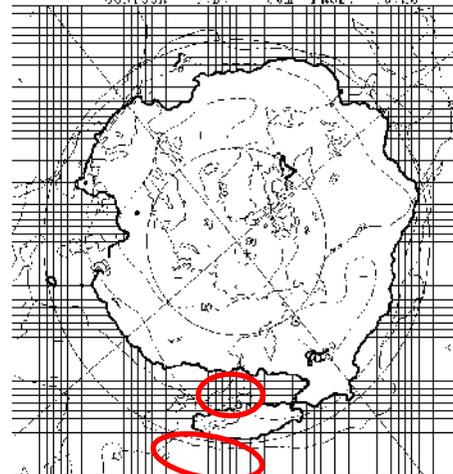
500hPa SPREAD AND HEIGHT

CONTOUR HEIGHT: 60m SPREAD: 0.20

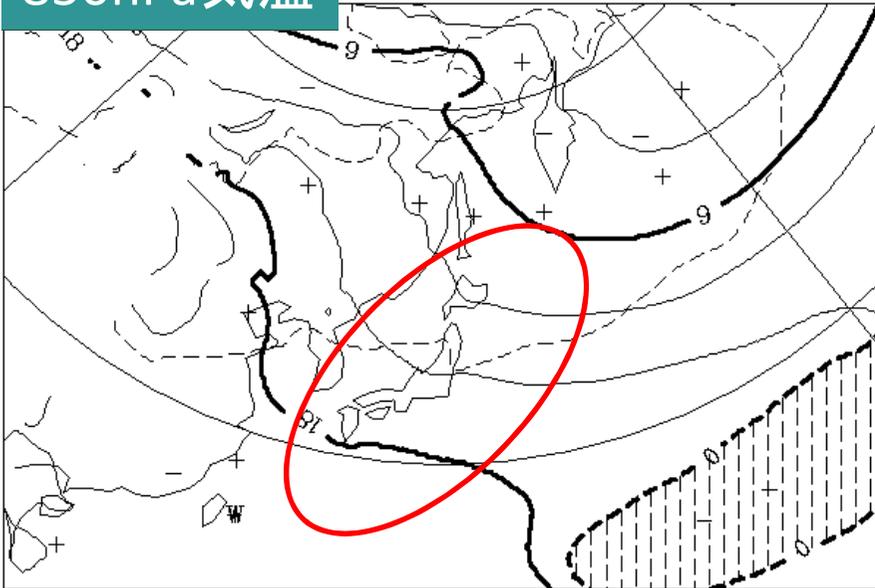


PROB. OF T. ANOMALY AND S.D.

CONTOUR S.D.: 20m PROB.: 0.25

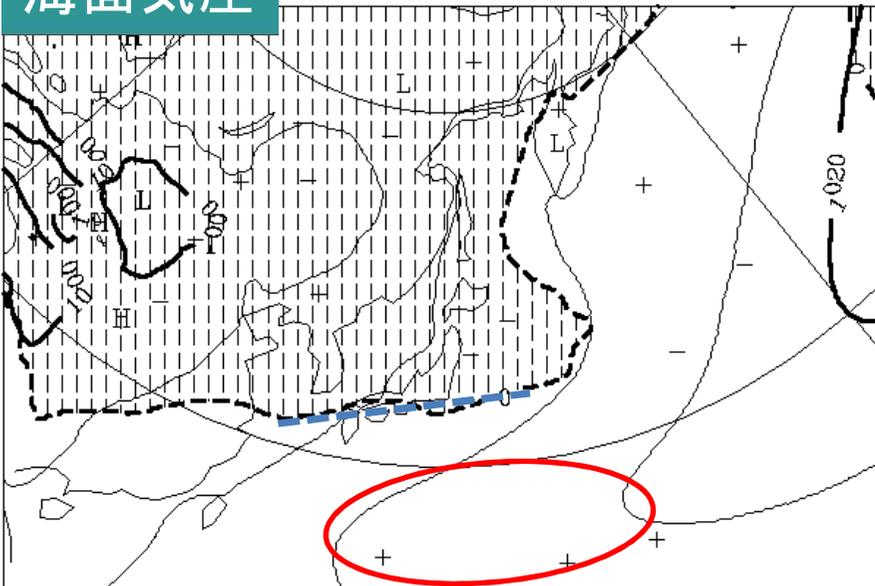


850hPa気温



日本付近は正偏差に覆われる。

海面気圧



日本の南で高気圧が強く、日本付近では気圧の傾きが大きい。前線は平年の位置だが、太平洋高気圧の縁を回る湿った空気の流れ込みにより活動がやや活発になると考える。

想定される天候

- ・ 全国的に、平年と同様に曇りや雨の日が多いでしょう。

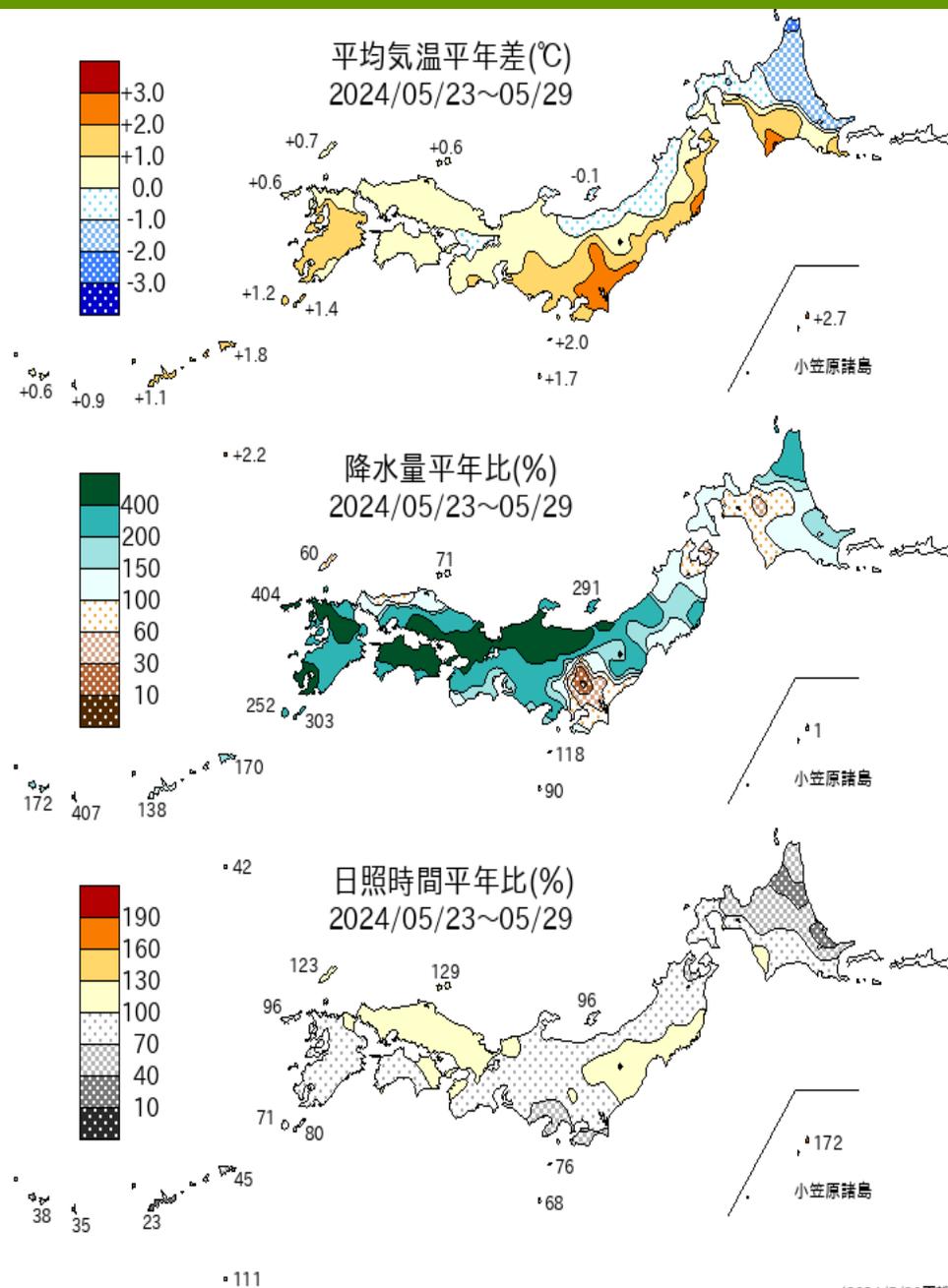
<気温>

暖かい空気に覆われやすく、東・西日本と沖縄・奄美では高温。北日本で高温傾向。

<天候>

北日本と東日本日本海側で並雨並照。前線や湿った空気の影響を受けやすいため、西日本太平洋側は多雨傾向・やや寡照傾向、東日本太平洋側、西日本日本海側、沖縄・奄美ではやや多雨傾向・やや寡照傾向。

最近1週間の天候経過



最近1週間(5月23日~5月29日)は、北・東・西日本では、低気圧や前線と高気圧が交互に通過し、天気は周期的に変化しました。27日から28日にかけて、低気圧や前線の影響で東・西日本を中心に大雨となりました。沖縄・奄美では、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の日が多く、大雨となった所もありました。

気温は、暖かい空気が流れ込みやすかったため、東日本を中心に高くなりました。